



桂林市中医医院から

こんにちは! No.6

2007.8

35℃が当たり前のような毎日。30℃ってこんなに涼しかったかな?とってしまう。日本では夜間の最低気温 25℃の夜を熱帯夜と言っていたはず。寝苦しかったことを覚えているが、、、いまは室温 30℃でもエアコンなしで安眠♪日本に帰ったら…夏風邪をひくこと間違いなし!のようだ。

シルクロードの旅

協力隊には年間最低 20 日許される休みがある。この 1 年間、旅行らしい旅行をしていなかったベイは、かねてからの希望であったシルクロードの旅に出る許しを得、7月19日、バックパックを背負って出発した。
(線が太くなっているところが今回のルート)

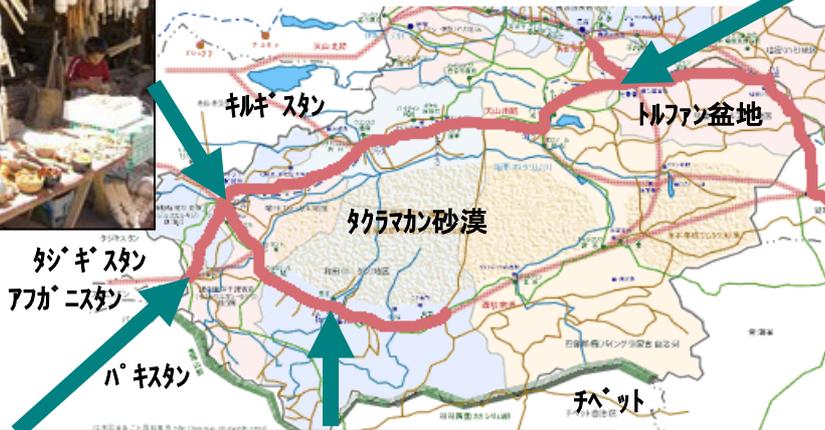
まずは写真右『トルファン』。中国でも最も暑いところではないだろうか。この日も外気温は43℃、、、皮膚が痛かった。もちろん病院には全室にエアコンが設置されているようだった。ウイグル族が多く、同じ中国とは思えないところだった。
次は写真左、オアシス都市の『カシュガル』。列車では西の終点。ここはもう中国ではない、といった感じ。イスラム色にあふれ、中国最大といわれるモスクがある。店番の子どもたちは、コマを上手にまわして見せてくれた。



トルファン



カシュガル



タシュクルガン



ホータン

続いて写真左、タジギスタン、アフガニスタン、パキスタンとの国境を持つ『タシュクルガン』。国境に近いせいか、警備にあたる漢族と思われる人たちが多く見られた。ここは80%以上がタジグ族。別世界とでも言おうか、合成写真のような青空が果てなく続いていた。標高3300mほどあり、日のあたらぬ室内は寒い

くらいで、冷え性のベイはしもやけになりそうだった。

続いて写真中央、タクラマカン砂漠の南『ホータン』。ここは『玉石』で有名なところで、2008年北京オリンピックのメダルにも使用されることになっている。それを狙ってか、観光開発真っ最中!といった感じで、大きな建物があちらこちらで建設されていた。ここまで来ると、いくら「日本人だ!」と言っても信じてもらえず。。結局、(中国の)南方の人だということに話は落ち着いていた。



さて、桂林を離れ、旅をしたわけだが、各地でいろいろな景色を見て、いろいろな民族と出会った。その土地にはちゃんと根をはって暮らしている人がいて…。開発とか発展とか言っているけれど、それって本当に必要なことなのかな?と考えもした旅であった。

《 2015年までにすべての障害者がリハビリを享受するために 》

～中国のリハビリ事業のはなし～



2002年から日本の技術協力として行われてきた『中国リハビリテーション専門職養成プロジェクト』が今年、フォローアップ期間を含むすべてを終了することになっている。このプロジェクトでは、国際基準にあった4年制教育を受けた質の高い理学療法士および作業療法士の養成が目指され、この夏、2期目の卒業生が大陸に放たれた。実際、彼らは北京周辺や沿岸部に就職しているらしいが。。

現在中国では、『2015年までにすべての障害者にリハビリを享受できる』（障害者事業5か年計画：2006～2010年）をスローガンに掲げ、上記達成のために、2010年までにリハビリ専門技術者は研修を受け、有資格認証者だけが業務

にあたるとしている（全国障害者連合リハビリ人材養成計画：2005～2015年）。肢体障害に関して言うと、急性期治療を病院で施した後、回復期のリハビリは社区（日本でいう地域社会）で行うとしており、社区レベルの治療師人材の養成も含まれている。では、2007年の現状はどうなのだろう？

1996年4月に中国卫生部（医療担当部局）が出した総合病院リハビリ管理基準によると、以下が必要条件とされている。となると、我が中医医院（3級病院）にもリハビリ治療師が4人はいるはず…なのだ。また、看護師隊員の配属先病院でも

2級病院	専任あるいは兼任のリハビリ医師1名	リハビリ治療師2名
3級病院	専任あるいは兼任のリハビリ医師2名	リハビリ治療師4名以上

この基準を満たしている病院は少ない。これを、中央は把握しきれていないというのも現状だ。事業に関するいくつかの資料を読んでみているが、今、ベイが見ている現状と資料に書かれている近未来がどうしてもつながらない。宙に浮いた計画にしか思えないのだ。

中国における社会福祉施策は、貧困者、災害被害者、傷痍軍人などへの支援を中心に実施され、高齢者、障害者、児童福祉はすべて国有企業等の福利厚生として対応されてきた。上記5か年計画により、『政府は障害者業務を公共サービスの体系に取り入れる。…各財政部門は、障害者事業を発展させるための経費を予算に取り入れる。』ことが明記された。これから考えると、中国がリハビリ事業に本腰を入れて取り組もうとしていることは確かなようだ。そうであるにしろ、現在進めようとしている計画は北京や沿岸部に適しているのではないだろうか。大きい国だからこそ、各地の状況を網羅した計画を作ることは困難なのではないだろうか。

日本を含む海外の事業を手本にするのはいい。しかし、それをそのまま持ち込むことはまったく意味がないことであって、中国人による中国人のための方策を考えて欲しいものだ。

●余談●

先日、看護師と新潟で起こった地震の話をしていて、そのついでに、日本人の恐れているものは…『地震・雷・火事・親父』と言う話もしました。さて、中国人の恐れているものは？？『流行性感染症』なんだって。さすが人口が多いだけあるな～、これも文化・環境の違いだな～と納得してしまった。



～中国語講座～

●医療・リハ用語

病歴（びんりい）：カルテ

査房（ちゃーふあん）：回診

医師たちは必ず毎朝受け持ちの患者さんを回診する。

これは日本も見習いたいところだ。

●日本語と意味が違う語

回復（ふいふう）：返答する、返事する。

「かいふく」を表すには「恢復（ふいふう）」を用いる

編集後記

ベイの嘆き

旅から戻ってきたら8月も終わり。と言うことは、任期も残り10ヶ月だ。先日、某大学の医学部の学生が我が病院に見学に見え、少しだけ話をした。その時、中国のいいところは何ですか？と聞かれたことに多く答えられなかった。残りの任期は良いところを認める作業もちゃんとしていこうと心に誓ったのでした。。

しかし、この暑さはいつまで続くのでしょうか？（ベイ）